

SANS FRONTIERES vol.4 2009.10

はじめに

シルバーウィークを利用して東京近郊のK市にあるT団地を訪れました。この団地は50年以上前、当時の住宅公団によって造成された103棟約4700戸から成る一大ニュータウンです。2004年からは都市再生機構（UR）による老朽化した建物の取り壊しと新規高層住宅の建設が進んでいます。一見活気に溢れた団地のように見えますが、実は居住者の4人に1人が高齢者であり、独居老人は700人を超え、いわゆる孤独死も問題となっているそうです。その背景の一つには地域共同体意識の希薄化があると思われます。他人との関わりの煩わしさを厭い自治会活動に参加しない人も増えていると自治会長さんが嘆いておられました。こうした状況はK団地にとどまらず、全国の「ニュータウン」や住宅地で起こっているのです。50年前に誰がこんな現象を予測したでしょう。人間がつくったものはいつかは古び朽ち果てていきます。そのたびに新しいものを作っても人と人との結びつきを再生できなければ無意味ではないでしょうか。T団地の入口に建つ真新しい高層住宅の中で今から50年後に果たして人々が本当に安らかで満ち足りた生活を送れているのか、言い知れぬ危惧の念を抱きながら彼の地を後にしました。地方の農村における限界集落化や集落そのものの消滅の危険性が高まると同時に地方の医師不足の深刻化が問題視されています。しかし首都圏の足元でもある意味の限界集落化が進行しつつあるという視点も閉却することなく医療や福祉の問題を考えていってほしいものです。

医歯薬講演会

本年度第1回医歯薬講演会が6月24日おこなわれました。今回は茨城県医師会常務理事、石渡産婦人科病院院長の石渡勇先生をお招きし「医療の現状と医療従事者を志す上での心構えについて」という演題で講演していただきました。茨城県内における産婦人科の実態や、問題点等を分かりやすく説明していただくと同時に、自ら研究している再生医療についての話もあり、生徒は興味をもって説明に耳を傾けていました。また、講演終了後控室においてさらに詳しく話を聞きたいという生徒の要望にも快く応じてくださり、医療従事者を志す生徒達にとって大変勉強になった1日でした。



薬剤師講演会

平成21年7月3日に薬学部・薬剤師志望の生徒を対象に、本校薬剤師としてご活躍中の成井博先生をお招きしての講演会を開催しました。薬剤師の仕事は薬局内で行われるだけでなく、薬についての専門家として、様々な場所で公衆衛生の向上や増進に寄与しているということを説明していただきました。また、高校での学習についての貴重なアドバイスもしていただきました。生徒達も積極的に質問し薬学についての見識を深めることができました。



地球のコンサート

6月17日、山形で精神科医をなさっている桑山紀彦さんによる「地球のステージ」が記念講堂で行われました。「地球のステージ」とはライブ音楽と映像、スライドによる語りを組み合わせたものです。桑山紀彦さんはボランティアで世界各国をまわり、貧しい国や、紛争で医師が足りない国のサポートをなさったりしています。今回のステージではその一部を紹介していただきました。また、自らが医師を志したきっかけや高校生の頃のエピソードも話していただき、生徒達にとって心を動かされたとても感動的なステージでした。

看護体験・医師体験

夏季休業中に希望者を対象に、茨城県看護協会主催の「一日看護体験」と水戸市城南病院主催の「高校生一日医師体験」が行われ、本校医歯薬コースからも各学年数名が参加しました。体験に参加した生徒達は、医療の最前線で働く医師や看護師の方々から医療現場のお話を聞くことができ、また患者のケアの補助を実際に行ったことで、医療に携わる仕事に将来就きたいという意志をさらに強くしたようです。

※ 参加した生徒の感想(一部)

一日看護体験に参加した生徒

研修医の方が患者さんに優しく話しかける度に、患者さんの「早く元気になろう」という強い意志が伝わってきました。また、医師や看護師は患者とともに病気や怪我と闘っているということ、改めて実感しました。私も「頑張れ」ではなく「頑張りました」と言える医師になりたいと思います。(1年 女子)

高校生一日医師体験に参加した生徒

オリエンテーションの後、血圧の測定、午後からはディケアーを行い患者さんと直接お話しする機会がありました。治療を受けている方々には、心のケアも大切であることを知りました。この体験を通して、「患者さんを安心させることが出来る医師になりたい」という思いがさらに強くなりました。(1年 女子)

ボランティア

8月下旬、千葉県にある稲毛こひつじ園において医歯薬コース2年生の2名が介護のボランティアに参加しました。介護する側、される側両方の立場の方々から意見やアドバイスをいただき、普段経験することのできない貴重な経験をしたようです。

※ 参加した生徒の感想（一部）

医療サービスを受ける側の方々とは初めて接し、介護の大切さ、大変さを改めて感じました。施設利用の方からの「ありがとう」という言葉が今も私の心に残っています。（2年 女子）

「家へ帰りたいの」私が担当した重度の認知症のお婆さんは、何度も私にこの言葉を言っていました。私は何て声をかけていいのかわかりませんでした。しかし、施設の職員の方は暖かい言葉をかけ、親身になって話を聞くことで、お婆さんを落ち着かせていました。介護の大変さを知ると同時に、身体だけでなく精神面での介護の大切さを知ることができ、とても貴重な体験ができました。（2年 女子）

モザイクアート

6月18日に文化祭が行われました。医歯薬コースでは、124名全員で作成するモザイクアートに挑戦。今年のテーマは「ナポレオンの戴冠」。3年生の実行委員を中心に、各学年が協力する様子はまさに「SANS FRONTIERES」。横13.3m、縦6.8mの大作が完成しました。写真、校舎の大きさと比べてください。



下は作業途中の様子です。もともとなったのは1.5cm角に切った折り紙とそれを貼った紙。



1枚だけでは何だかわからないものが、貼り合わせると次第に絵になっていきました。たいへんな作業でしたが、そこから学んだことも多かったのではないのでしょうか。

学習合宿

平成21年7月27日～30日に3泊4日の日程で、1・2年生の学習合宿がレイクエコーにて実施されました。1年生は国語・数学・英語、2年生は国語・数学・化学・英語の集中講義と自主学習で、1日当たり合計約10時間にもおよぶ学習を行いました。受験に対する自分の学習方法等を見直す良い機会となったようです。

茨城県地域枠情報

医師不足対策の一環として、国公立大学で医学部の定員を拡大しており、2010年度は前年度より369人増やし8855人の予定となっています。2007年度と比べれば16%（1230人）増です。医師確保のため各県で地域枠を設けており、茨城県でも、昨年度から、筑波大学医学群医学類（5名）、今年度から、東京医科大医学部医学科（3名）、獨協医科大医学部医学科（10名、卒業後、北関東3県、埼玉県及び福島県で医師として医療に従事する意志のある者）、杏林大学医学部（1名）の地域枠が設定されました。筑波大学及び東京医科大学の地域枠推薦入学試験を受験する際には、茨城県が実施する修学資金貸与のための面接（今年度は10月17、18日）を受ける必要があります。

今後の予定

医歯薬コースの平成21年度2学期の行事予定です。

	第1学年	第2学年	第3学年
10月			8(木)医学部面接対策講座
	17(土)英検1次		
	19(月)～20(火)MT		20(火)進研記述模試
	24(土)総合学習発表会		29(木)～30(金)進研マーク模試
11月	30(金)漢字検定		
	7(土)進研記述模試	6(金)～7(土)進研記述模試	
	13(金)県民の日		
12月	16(月)～18(水)MT		
	2(水)～4(金)MT	1(火)～5(土)修学旅行	3(木)～4(金)河合塾センタープレ
	22(火)終業式		
	24(木)～28(月)冬期課外		